民　暴　弁　護　士　だ　よ　り　No.41

発行：公益財団法人　埼玉県暴力追放・薬物乱用防止センター　令和２年 11 月

【家庭でできる暴排】

寄稿者
森田　智博　弁護士

１　はじめに

警察，暴追センター，民暴弁護士が一体となり反社会的勢力を撲滅するための活動をしています。それなのに，反社会的勢力は姿形を替え，市民を脅かし続けています。

いわゆる半グレの台頭，特殊詐欺集団の跋扈など，反社会的勢力に関するニュースは無くなることはありません。

どうしたら反社会的勢力を生み出さない社会を作り出せるのでしょうか？

私は，民暴弁護士として活動する他，学校問題や虐待問題などの子どもの問題も多く扱っています。反社会的勢力に加わる者の中には，境遇に恵まれなかった者が多くいると言われていますし，私自身，自分が関わった子ども達が犯罪行為に手を染めていく姿を見ることも多く，幼いころの環境が反社会的勢力に加わるかについて大きな影響を与えているのではないかと考えてしまいます。そういったこともあり，今までの民暴弁護士の話しとは若干趣向を変え，どのようにしたら反社会的勢力を生み出さないのかという視点から，虐待問題やいじめ問題の現状を説明しようと思います。

２　虐待について

みなさんは虐待という言葉を聞くとどのようなものを思い浮かべるでしょうか。

「児童虐待の防止等に関する法律」（児童虐待防止法）では，身体的虐待，性的虐待，ネグレクト，心理的虐待の四種類があげられています。おそらく，みなさんもこのようなものを思い浮かべるのではないでしょうか。

しかし，近時，マルトリートメントという用語が注目されており，虐待と思い浮かばないような不適切な養育（夫婦喧嘩，子育てに真剣になるあまりにしてしまう度の過ぎた行為，その日の気分で子への態度を変えること）が子どもの発達に大きな影響を与えると言われるようになっています。マルトリートメントによって，子どもの脳の大事な部分が物理的に傷ついてしまうことで，過覚醒，衝動性，刹那的行動，自己調整の悪化などを生じさせ，反社会的行動に結びつく可能性もあります。

我々，親の世代も日々のストレスを抱えていることから，その時の気分で子どもへの態度を変えてしまうこともあるかと思います。自分では虐待をしているつもりがなくても，子どもは虐待を受けたのと同じように傷ついています。思い当たる方は，ぜひ気を付けていただければと思います。

この分野の有名な研究者としては友田明美さんという方がいらっしゃいます。興味のある方は調べてみてください。

３　いじめ

いじめも虐待と同じように子どもの脳に影響を与えるとも言われています。

私は，さいたま市と埼玉県のスクールロイヤーであることから，子どもや教員向けにいじめに関する研修を行うことが多くあります。その際，子どもも大人もいじめはいけないとわかっていると言います。しかし，いじめはなくなりません。まるで，みなが反社会的勢力や犯罪が悪いということはわかっているのに，それらがなくならないのと同じです。

いじめを無くせない原因について，ソーシャルスキル不足にあると考え，ソーシャルスキルトレーニングを学校でも取り入れるべきという動きがあります。ソーシャルスキルとは，良好な人間関係をつくり，それを保つための知識や経験に基づいたコミュニケーションの技術・技能と言われています。

反社会的勢力の問題を扱っていると，相手の気持ちが考えられない，葛藤やストレスに耐えられず安易な方法に流されてしまうなどの特徴を見ることが多くあり，ソーシャルスキル不足が反社会的勢力を生み出す根底にあるのではないかと考えさせられます。子どものうちから相手の考えや気持ちを理解すること，自分の考えや気持ちを伝えること，人間関係を良好に保つことができれば，いじめや反社会的勢力の減少につながるのではないかと思います。みなさんもソーシャルスキルについて考えてみてください。

４　終わりに

一度カビが発生してしまうと，そのカビを取り除いても，環境を変えない限り，またカビが発生してしまいます。それと同じように個々の反社会的勢力を検挙しただけでは最終的な問題の解決にはならないのかもしれません。みなさんのお力をお借りして，子どもに優しい社会を目指し，反社会的勢力を生み出さない社会を作れればと思います。

寄稿者

埼玉県熊谷市宮町２－１１８　末広不動産宮町ビル２階・３階
蔭山法律事務所　　☎048-599-1300
埼玉弁護士会民事介入暴力対策委員会
弁護士　森田　智博

この原稿は、公益財団法人埼玉県暴力追放・薬物乱用防止センターが賛助会員に配信しているメールマガジン「埼玉県暴追センター通信№140」から編集したものです。